カナダ　Peason College　寺田朋笑さん

留学期間　R5.8～R7.5（2 年間）

1　留学の成果

今年 5 月にピアソンカレッジ UWC での 2 年間の生活を修了しました。卒業式の 24 時間前まで IB のファイナルテストを受けていたり、人生初の徹夜をして先生や友達への手紙を書いたり、脱水症状になるくらいまで別れに涙を流したりと、帰国までの数日は忘れがたい思い出が凝縮された期間になりました。また、冬休みから卒業までの 4 学期そのものも、テストと数々の校内イベントが行われ、とても忙しい季節になりました。

異国の地で、慣れない言語と世界中から集まる仲間に囲まれて過ごしたピアソンカレッジでの生活。毎日が濃厚で、2 年とは思えないほどの多くの気づきと学びを得ました。例えば、課外活動や海洋生物学の授業でバンクバー島の自然豊かな場所を訪れたことを通して、その地に生息する様々な動植物について学びました。また、学校の近くにある農家でフードバンクへ寄付する野菜を作るプロジェクトを始めたことを通して、物事の企画運営の方法を学びました。更に、相手に直接会って話をする事で、メールや電話で対応できなかった問題をスムーズに解決できたり、互いのアイデアを正確に説明できたり、それらによってプロジェクトをより理想の形に近づけられたりできると気づけたことは、将来にも活かせる貴重な学びでした。生活を共にした仲間からの学びもありました。イベントを通してだけでなく、食事の時や、ルームメイトとの何気ない話から、異なる国の文化や教育、日常生活について知る事ができたのは、UWC ならではの経験でした。学問に重きを置いて話すと、与えられた教材を暗記し、応用する力ではなく、自分でアイデアを出し、または情報を集め、　文字や言葉にするといった力を鍛えることができました。

そして、自分の経験や友達からの学びに加え、この 2 年間の生活で実際の“世界”の有り様を目の当たりにさせられたことが、強く印象に残っています。ピアソンカレッジでの生活によって、自分が思い描いていた世界（人種や言語、宗教など分け隔てなく皆が生活している世界）がいかに理想に過ぎないかということを思い知らされました。私は 2 年前、この理想的な世界が UWC では広がっているという「思い込み」を持ったまま、カナダに渡航しました。しかし、私が直面した現実は、言語、宗教、文化、人種、生活環境がコミュニティの形成に大きな影響を与えている世界でした。異なるバックグラウンドを持った人同士の仲が悪いといったことはありませんでしたが、スペイン語を話すラテン系の人の集まり、辛い食べ物を欲するアジア人の集まりを目にすることが多かったです。これらの例えの他にも、学校で徐々に作られていくグループには何らかの共通点があり、それらは高頻度で、言語、宗教、人種によるものでした。もちろん、母国語でコミュニケーション

ができれば楽で、込み入った話もできます。同じものを食べて、美味しさを共有できる人に囲まれていた方が 気持ちが良いですし、楽しいです。しかし、似たようなバックグラウンドを持っていて、自分との 共通点が多い人ばかりと時間を過ごしていたら、世界中から来た仲間と互いの違いを学び、理解しあうという UWC に来た意味を失ってしまうかもしれない。私の周りに広がる現実と、自分の中の理想的な生活に対し、葛藤していたことが多かったです。この 2 年間で、この葛藤が収束したわけではありませんが、生まれ育ったバックグラウンドがコミュニティに与える影響の大きさを自分の目で確認できたことは、実際に国際色豊かなピアソンカレッジで生活できたおかげです。そして、たとえ同じ国から来ていたり、同じ言語を使っていたりしても、個人と個人の間に生じる違いの多くは、私の予想を超えるものでした。そのため、この 2 年間は、自分を知ることや“世界”を知ること、相手を知ることを通して、視野を広げられた、人生においてかけがえのない時間になりました。

私にこのような貴重な経験をさせてくれた奨学金を支援してくださった皆さまをはじめ、私に留学という世界を教えてくれた方、福井県教育委員会の方々、高校の先生方、そして家族に、心から感謝しております。これからも、この恩を心に刻んで、自分の夢を追いかけて突き進んでいきます。

2　履修状況、課外活動等

（1）履修科目

・English B（Higher level）
・Economics（Standard level）
・Marine Science（Standard level）
・Physics（Higher level）
・Mathematics Analysis and Approaches（Higher level）

（2）課外活動および受賞歴等

・KULE（ケニアとウガンダの村へのファンドレイジングを行う団体での活動）
・カヤッククラブ（半年）
・Pearson News、報道部（半年）
・Food committee の代表 （キッチンスタッフと食堂や料理の問題について会議する委員会の代表）
・SEADs のプロジェクトリーダー （近くの村の農家と行った、フードバンクに寄付する野菜を育てるプロジェクトの立ち上げと運営）
・ピアソンカレッジ 50 周年記念の校内イベントの企画運営
・Language Buddy（英語に自信を持てない生徒とそれをサポートする生徒のコミュニティ）のリーダー

3　今後の活動予定

今夏から、アメリカのカリフォルニア大学デービス校で農業を学びます。留学で広げることのできた視野、伸ばすことのできた英語力、築けた人との縁を大切に、自分が興味のあることを突き詰めていきたいです。大学卒業後につきたい職業は、まだはっきりしませんが、未来の自分が「今を 100％で生きている」と答えられるような生活を送りたいです。学ぶこと、挑戦することの楽しみ、周りの人への感謝 の気持ちを忘れず、大学でも一生懸命頑張ってきます。

4　ふるさと納税寄付者へのメッセージ

ピアソンカレッジで過ごした 2 年間で、とても多くのことを吸収でき、多くの素敵な仲間に出逢うことができたのは、奨学金の支援をしてくださった皆様のお陰に他なりません。本当にありがとうございました。今後も自分で決めた道で精進してまいります。

5　記録写真

ピアソンカレッジ UWC50 周年記念の校内イベントの時の様子。ピアソンカレッジの歴史に関するクイズ大会を行っているところ。

	SEADs プロジェクトで、メンバーと農家さんとで一から作り上げたグリーンハウスの様子。
	友達と見た月食
	卒業式前日に Bay に飛び込んでいる時の様子。ピアソンカレッジでは卒業前に Bay jump と呼ばれる(名の通り海に飛び込む)イベントが行われる。

	CAS week 中、友達と楽しんだビーチヨガ。海に沈む夕日とともに！
	最高のルームメイト達との集合写真。みんなの出身はペルー、ドイツ、アフガニスタン。